

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000185
法人名	(株)安里
事業所名	東海橋苑グループホーム東起 2階
所在地	名古屋市中川区東起町4-154-1
自己評価作成日	令和3年11月8日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391000185-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に天然温泉ヒノキ風呂があります。身体状況に合わせて安全に入浴して頂ける様、リフト浴もあります。
 港区に介護付き有料老人ホームあり、同建物内には小規模多機能居宅介護事業所があり、連携を図っています。近隣にはグループホームもあります。
 「期待値を上回る満足度の提供」を理念に、職員一同日々勤めております。
 職員のスキルアップのため外部研修に参加したり、内部研修を開催しております。(※1)
 クラブ活動(体操、脳トレ、製作等)を週1日程実施し、入居者様に喜んで参加して頂いております。
 お誕生日の日には、ご本人様・ご家族様のご意向を確認し外出レク等を行っております。(※2)
 環境・感染、レクリエーション、身体拘束・高齢者虐待予防の3つの委員会を設け、良い施設にしていこうと2か月に1回(身体拘束・高齢者虐待予防委員会に関しては3か月に1回)話し合いをしております。
 ※1、※2→ 現在新型コロナウイルスの関係で、内部研修はスタッフへ研修内容に関して資料を配布し、外部研修への積極的な参加はせず(Zoomでの参加)、外出レクも行っていない。新型コロナウイルスが落ちれば、今後も行っていきたい内容である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小規模多機能事業所を併設していることで、小規模多機能からグループホームへの移行が可能である。利用者にとっては、小規模多機能を利用しながら在宅での生活を継続し、様々な状況に合わせて移行できることで、円滑な生活場所の移行にもつながっている。ホームの日常生活については、職員間で利用者一人ひとりの意向等の検討を行いながら、その方に合わせた日常生活の支援が行われている。利用者の日常の暮らしぶりについては、担当職員も協力しながら定期的に家族に報告されている。また、地域の方との交流にも前向きな取り組みが行われており、感染症問題で困難になっている状況の中でも関連事業所と連携したサロン「サロンおこしやす」の開催が行われており、感染症対策を行いながら現状で可能な範囲で地域の方との交流の取り組みが続けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念を説明している。理念を元に各ユニットで年に2回目標を掲げ取り組んでいる。	運営法人及びホーム独自の理念を支援の基本に考えながら、職員間で理念の共有が行われている。また、ユニットで目標を考え、振り返りを行いながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、地域の行事等は入居者様と一緒に参加したりしている。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で行事が中止になっている事も多く入居者様の外出を控えている事もあり、行事への参加は行っていない。	ホームは、地域の自治会に入り、地域の方との交流の機会がつけられている。感染症問題が続いているが、関連事業所とも連携しながらサロンの取り組みを昨年11月に再開(現在は中止)しており、感染症等の状況をみながら交流が行われている段階である。	サロンの取り組みについては、感染症問題が深刻になったことで再び中止になっているが、今後の感染症の状況をみながら、活動が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や支援については、推進会議にて伝えてはいるが、推進会議に参加されていない地域の人々には、あまり活かされてはいない。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で推進会議に関して開催しておらず、参加して頂いている方に報告書を郵送している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っており、その中での意見を参考にし、取り入れるよう努めている。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で推進会議に関して開催しておらず、参加して頂いている方に報告書を郵送している。	会議については、書面による実施が続いており、現状の報告が行われている。例年は、関連事業所とも連携しながら会議が行われており、会議の関係者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	会議に関して、書面による実施が長期化している状況もあるため、今後の状況もみながら、会議の開催につなげることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密には連絡はとってはいないが、疑問等あれば電話をして尋ねている。取り組みは特に伝えてはいない。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、今年度からホーム管理者が併設の小規模多機能事業所の管理者を兼務することになったことで、情報交換等の機会が増え、併設事業所を通じた交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待予防委員会を3か月に1回開催をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束に関しての内部研修を年2回開催し身体拘束に関する知識をスタッフへ周知する機会を設けている ※現在、内部研修に関して新型コロナウイルスの影響で資料をスタッフに配布する形をとっている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、職員間で利用者の状況に合わせた対応が行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会や職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待予防委員会を3か月に1回開催をし、高齢者虐待をしないケアに取り組んでいる。虐待について内部研修で学ぶ機会を設けており、ニュース等で虐待の事をTVで取り上げられた場合はその都度注意を促している。高齢者虐待に内部研修を年2回開催し高齢者虐待に関する知識をスタッフへ周知する機会を設けている。 ※現在、内部研修に関して新型コロナウイルスの影響で資料をスタッフに配布する形をとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人については、管理者が以前外部研修に行き学んだ。特に対象になる方が見えない為支援はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、疑問等も尋ね、理解し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や担当者会議で行い、意見を伺っている。反映できる部分は反映するようにしている。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で推進会議は開催しておらず、担当者会議に関してはご家族にはお電話にてご意向等をお聞きしている。	現状、家族との交流が困難になっているが、可能な範囲で家族にホームに来てもらう機会をつくり、家族からの要望等の把握につなげている。また、定期的なホーム便りには、担当職員も協力しながら利用者一人ひとりに関する報告も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個人面談を行い、反映できる部分は反映するようにしている。	毎月のユニット会議や日常的な意見交換が行われており、職員からの意見等を管理者やリーダーを通じて、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員間で役割分担を行う取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な際には個人面談を行い意見を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の開催や外部研修を個々に合った内容の研修に参加してもらっている。 ※現在、内部研修に関して新型コロナウイルスの影響で資料をスタッフに配布する形をとっており、外部研修に関しては積極的な参加はしていない。(Zoomでの研修には参加している。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に外部研修や懇親会に参加し、横のつながりを大事にしている。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で交流する機会の場へ参加していない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や担当者会議でご本人様からご要望や不安な事等お伺いし、ケアプランに反映させ、安心する関係づくりに努めている。普段も生活の中で声掛け、傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時、担当者会議等で不安やご要望をお伺いし、関係づくりに努めている。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で担当者会議に関してはご家族にはお電話にてご意向等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険のサービスに関しては、在宅のサービスが良いと思えば、在宅サービスをすすめたり、施設内のサービスであれば現状を把握した上で、自立に向けてのケアサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図りながら関係を築けるように努力をしている。ケアをさせて頂く気持ちを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話にてコミュニケーションを図りながら関係を築けるように努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前使っていたものを居室に置いたりしている。誕生日レク等で、馴染みの場所に外出して頂いたりしている。面会に来られたり、ご家族様と外出され馴染みの人と会ったりしている。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で、外出は行っていない。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、併設事業所にホームの利用者の関係の方が利用する等、現状で可能な範囲で交流の機会がつくられている。また、家族との外出についても、身内の方の葬儀等を通じた外出の機会がつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように、コミュニケーションを図ったり努めている。しかし、一人が好きな方に関しては、自由にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に何かあればいつでも相談して下さいと声は掛けさせていただいている。退去されても相談の電話があったため対応させてもらったこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様に意向を伺い、なるべく本人様の意向に応じたケアを心がけ、ケアプランに反映させている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等に関する把握を行い、職員間での共有につなげている。また、毎月のカンファレンスが行われており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にフェイスシートを作成し、職員に閲覧できるようにしている。ご家族様にも入居者様の昔のこと等お伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し、記録や申し送り等で情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回モニタリングとご本人様、ご家族様、介護職員、管理者、計画作成担当で担当者会議を行い、プランを作成している。 ※現在、新型コロナウイルスの影響で担当者会議に関してはご家族にはお電話にてご意向等をお聞きしている。	介護計画は6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも担当職員も協力しながら支援内容に関するチェックが行われており、毎月の状況確認や定期的なモニタリングが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に記載したり、申し送り等で情報共有し、プランに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の介護サービスを使うと実費になるためおすめはしないが、案としては出すようにしている。地域のボランティア等も必要があれば探すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はまだまだ不十分だと思われる。しかし、地域行事の参加、ボランティアの活用はしている。※現在、新型コロナウイルスの関係で行事への参加、ボランティアの活用は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携し、基本的には主治医に診て頂いているが、希望される病院がある場合は、その病院へ受診して頂いている。緊急時の場合は、救急車を呼んでいる。	ホームでは、協力医が日常的にホームに訪問していることで、利用者の健康状態に合わせた医療面での柔軟な対応にもつながっている。また、訪問看護も行われており、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度相談している。24時間連絡体制はとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ずサマリーを提供し、定期的にお見舞いに行っている。病院へ行った際に本人様や看護師に状態を伺っているが、個人情報に厳しい為、看護師からは教えて頂けないことも多い。退院時にサマリーは頂ける。※現在、新型コロナウイルスの影響で、お見舞いに行くことが出来ていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合について説明している。担当者会議でも話し合ったり説明したりはしているが、地域との連携はどうとてよいかわからない。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、協力医と連携した利用者の看取り支援も行われており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、意向に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員とまではいかないが、年に1回内部研修を行って参加してもらっている。緊急時マニュアルを作成し、各詰所に設置。 ※現在、内部研修に関して新型コロナウイルスの影響で資料をスタッフに配布する形をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災・防災訓練、避難訓練を行っているが、全職員の参加は出来ていない。防災訓練の中で定期的に中川消防署の方に来ていただき指導を受けている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設事業所と合同で訓練を実施し、職員間の連携につなげている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	地域の方との協力関係の取り組みが行われているが、感染症問題もあり、中断している状況でもある。今後の状況をみながら、段階的に再開されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだまだ不十分などころはあるが、気を付けるよう努めている。	職員が利用者を尊重した対応を行うように、ユニット毎に接遇等にもつながる目標をつくる取り組みを行う等、職員の意識向上にも取り組んでいる。また、定期的に接遇にもつながる研修を実施しており、職員の振り返りや注意喚起にもつなげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての希望をかなえる事は出来ていないが、なるべく本人様に伺い意向に沿えるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人様のペースに合わせるようにしているが、法律上の規定人数では難しいこともある。急な欠勤、退職で職員の体制が不十分な時は出来ないこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方は、本人様に着る服を伺うようにしている。ご自分で整容出来ない方に関しては、介助にてさせて頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に手伝えることは手伝って頂くようお願いしている。1カ月に1回はテイクアウトレクリエーションを行っており、メニューの中から好きな物を選んで頂き召し上がって頂いている。	ホームでは、外部の食材業者も活用しながら食事の提供が行われており、身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。また、現状の外食が困難でもあることで、テイクアウトを活用した食事の提供も行われており、利用者の楽しみもにつなげている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、少ない方は理由をお伺いし、食べやすく切ったり、補色など嗜好品の提供をしている。人によっては主治医より栄養剤を処方して頂いている。水分は1日1リットルは摂取していただくように、促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、準備や介助を行っているが、拒否される方もみえる。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には日中はトイレでの排泄を心がけている。ほとんどの方が自己にてトイレへ行ったり、定時にトイレ誘導をしているが、パット内に失禁している方もみえる。排泄パターンは記録に残し把握している。	利用者全員の排泄記録を残し、利用者毎に申し送りを行うことで、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に支援が行われており、医師や訪問看護とも連携した排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操に参加して頂いたり、毎朝ヤクルトを飲んで頂いたり、水分をなるべく摂取して頂くように促している。便秘の際は主治医や看護師とも相談し下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の意思表示ができる方に関しては、希望に沿った入浴をして頂いている。その他の方に関しては、施設側で時間を決めて入浴して頂いている。	ホームでは、週3回の入浴を基本に支援が行われており、時間も午前と午後に対応している。併設事業所で温泉の入浴が行われており、利用者の楽しみにつなげている。また、身体状態に合わせたリフトを活用した入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい方や体調不良の方等、その都度休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分からないことがあれば主治医、看護師と連携を図ったり、薬情を見たりして情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の趣味を取り入れたレクやクラブ活動、毎月行事を企画していて、個人の外出レクや喫茶店レク等も行っているが、まだまだ不十分ではあると思う。 ※現在、新型コロナウイルスの関係上、外出は行っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員の関係もあり外出の支援は難しい時がある。時々散歩に出掛けたり、喫茶店や外食、買い物へは行ったりしている。ご家族様が外へお連れして下さることはよくある。 ※現在、新型コロナウイルスの関係上、外出は行っていない。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、状況等をみながらホームの外に出る機会をつくっている。また、自動車を活用したドライブの機会をつくり、季節等に合わせた外出の取り組みが行われている。	職員間で検討を行いながら、現状で可能な外出の取り組みが行われているが、外出については限られた範囲となっている。今後の状況もみながら、利用者の外出が増えることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは理解している。しかし、貴重品は、トラブルにもなりかねるので、個人では持たない様ご家族様へ説明している。施設側でお金を預ることができるので預かっている入居者様に関しては一緒に買い物へ行ったりしている。 ※現在、新型コロナウイルスの関係上、外出は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望がほとんどないが、ある場合は支援していく。今年度も入居者様からご家族に暑中見舞いをおだしし、年賀状も出す予定。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく清潔かつ安全で使いやすいよう環境チェックや清掃を行っているが不十分なところもある。掲示板等に季節に合った掲示物を作成し、掲示している。	ホーム内は広めの空間が確保されており、利用者がゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。リビングの壁面には、季節等に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示も行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファと机は用意してあるが、一人一人に居場所があるか問われれば、難しい。共有スペース間で独りになれるような広いスペースはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険な物や貴重品以外は、持ってきて頂いても結構だと説明している。仏壇や今まで使っていた椅子など持ってきている方みえる。	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた家具類や仏壇等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドが備え付けとなっており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや引き戸などなるべく自分で行えるような設備は整えてある。		